

事業者向け 放課後等デイサービス自己評価表(令和5年2月実施)

公表:令和 4年 3月 28日

事業所名 LEIF大野城

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標・工夫している点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	2		宿題や遊び等の活動を行うためのスペースを確保しています。また、昼食時は新型コロナウイルス感染予防の観点から、パーテーションを用いながら利用者間を2m以上離れた状態にしています。
	2	職員の配置数は適切である	2	3	2	2023年1月の単位追加依頼、規定人数ギリギリでの運営になっているため、スタッフの負担が増えています。余裕のあるスタッフ数になるよう採用を進めています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	2	1	賃貸物件であるため、工事を伴う改修を行うことができません。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	1		職員会議や朝礼時に、業務改善のための目標設定や振り返りを行っています。また、管理者やエルダーメンター担当職員が中心となって、職員のフォローアップを行っています。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	1		保護者アンケートの集計結果を職員全体に周知し、話し合った上で業務改善を行っています。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	1		自己評価の結果についてはホームページで公開しています。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		4	3	第三者評価は行っていません。毎月1回、業務提携を行っている放課後等デイサービスの代表者や職員による指導を通して、業務改善を行っています。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	2		毎月1回、スタッフ全員参加の内部研修を行っています。また、積極的に外部研修に参加しています。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7			契約時に保護者様からご記入いただいた特性チェックシートや体験会での利用児童の様子をもとに、個別支援計画を作成しています。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	2		標準化されたアセスメントシートを使用しています。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	2		サッカー療育のプログラムについては、サッカー指導担当が中心に立案を行い、スタッフ全員で意見を出し合い、利用児童に応じたプログラムになるように努めています。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7			月ごとにテーマを設定して行うことで、様々なプログラムを組んでいます。また、月ごとのテーマに沿ってステップアップができるような練習メニューの工夫を行っています。今後も、新しいメニューを取り入れていき、固定化を防ぐように努めていきます。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	3		子どもたちに毎月の目標などを設定して、支援を行うようにしています。また、グリーンカード(頑張り表)の取り組みを通して、中長期的な目標も設定して、支援を行っています。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7			利用児童の苦手なことや課題、特性に応じて計画を立てるようにしています。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	1		朝礼やサッカー療育打ち合わせを通して、支援内容や役割分担、予想される事態への対応などを確認し、共通認識・共通理解のもとに支援ができるように努めています。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	3		支援終了後の送迎に多くの時間を必要とするため、その日のうちに職員間で打ち合わせることが難しい状況です。翌日の朝礼の際に、支援の振り返りを行い、今後の支援に繋げていきます。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	1		連絡帳、業務日誌、送迎日誌、トレーニング日誌など、各種記録を取り、支援の検証・改善につなげています。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	2		半年に1回のモニタリングを通して、支援目標を達成できているかどうかの振り返りを行い、個別支援計画の見直しを行っています。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	4	3		ガイドラインの総則についての理解が不十分な職員もいるため、職員全体で読み合わせを行います。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標・工夫している点など
関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7			児童発達支援管理責任者だけではなく、直接支援に携わっている職員も担当者会議に参加しています。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7			利用児童の初回利用時には、必ず学校に連絡を行い、送迎時の対応や集合場所の確認を行っています。また、送迎時に学校の先生に対して利用児童の学校での様子を尋ねたり、当事業所を利用しているときの様子を伝えたりしています。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	4		現在、医療的ケアが必要な児童の利用がありません。近所の小児科と連携しています。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	1	5	1	就学前のお子様に関しては、保護者様の同意を得た上で、契約時に幼稚園・保育園などと連携を取らせていただいています。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2	5		現在、障害福祉サービス事業所に移行した利用児童はおりません。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	5		新型コロナウイルス感染流行により、左記の専門機関への連携が取ることができていませんでした。今後、外部の勉強会など、医師の意見を聞く場を設けていきます。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		2	5	定期的に祝日イベントを実施し、その中で兄弟児との交流の機会を設けています。今後も、祝日イベントを通して、様々な子どもたちとの交流の機会を設けていきます。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1	5	1	大野城市障がい者自立支援協議会に参加しています。今後も、自立支援協議会への参加を通して、連携を深めていきます。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7			日々の送迎の際に、子どもの様子を伝えています。また、ご家庭や学校での様子をうかがい、保護者様の同意を得た上で職員間で共通理解を図っています。
保護者への 説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	3	1	電話や送迎時のコミュニケーションを通じた支援は行っています。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7			契約手続きの際に、丁寧な説明を心がけています。特に、初めて放課後等デイサービスを利用される保護者に対しては、時間をかけて説明を行っています。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7			保護者様からのご意見を詳しく伺い、一緒に改善策を考えながら支援を行っています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	4	2	保護者会は開催していませんが、親子サッカーなどの祝日イベントを実施することを通して、保護者間の交流が生まれています。今後も、祝日イベントを通して、保護者同士の交流の機会を設けていきます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	1		利用児童や保護者様からご意見をいただいた際には、内容を詳しくお伺いし、改善策を考え、日々の支援に取り入れるなど、改善していくようにしています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	2		毎月サッカー療育報告書を作成し、送迎時に保護者様へ直接手渡しをしています。また、LEIF通信等を通して、活動の様子を発信しています。
	35	個人情報に十分注意している	7			個人情報に関する書類は鍵付きの収納棚に保管しています。個人情報に記載されている書類を処分する際はシュレッダーを使用しています。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7			練習内容を文字やイラストを用いて表現するなど、利用児童の状況に応じた工夫を考えて実践するように努めています。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		2	5	地域の方を招待する行事は実施していないため、行事を立案して、実施できるように努めていきます。

		チェック項目	はい	どちらとも いいえ	いいえ	改善目標・工夫している点など
非常時等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7			各種マニュアルを策定していますが、契約手続き時に簡単に説明する程度であり、詳しい内容までは周知できていません。保護者様から各種マニュアルについての問い合わせがあり次第、詳しく説明を行っていきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7			火災・地震・不審者侵入を想定した避難訓練を定期的に行っています。また、実施後はLEIF通信を通して、保護者様に周知しています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7			年1回の委員会実施、年2回内部研修で虐待防止研修を実施しています。また、外部講師による研修においても虐待防止研修を実施するなど、研修内容の充実を図っています。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7			今のところ、身体拘束を行ったことはありません。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7			アレルギーのある利用児童については、職員全体で共有しています。また、エピペンを使用している利用児童のために、定期的なエピペン研修を実施し、全職員が対応できるように努めています。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	1		ヒヤリハット報告書を作成し、職員全体で共有しています。